



特集

鍬で大地を耕し、音楽で心を耕す 北海道農民管弦楽団

シリーズ「北海道の天然記念物」⑧ 二股温泉の石灰華〔長万部町〕

ほっかいどうの本 『アイヌモシリ オオカミが見た北海道』 北海道新聞社
『[きのとや]の挑戦 長沼昭夫の菓子づくり人生』 亜璃西社
『炭鉱町の少年』 共同文化社



特集

くわ 鋤で大地を耕し、 たがや 音楽で心を耕す 北海道農民管弦楽団



ほぼ毎週練習を行って
定期演奏会を迎えます

2023年1月29日、北海道農民管弦楽団の第29回定期演奏会が北広島市芸術文化ホール花ホールで開催されます。農業に関わりのあるアマチュアの演奏者が冬ののうかんき農閑期に集まって年1回、道内各地で定期演奏会を開催するという、全国あるいは世界的にも珍しいオーケストラです。「大地を耕し、心を耕す」をモットーに創り上げた音楽を人々に届ける。そうした活動を続けてきた代表のまきのときお牧野時夫さんやメンバーの皆さんなどに話を聞きました。

(文・石橋明浩 取材日2022年11月12日ほか／写真提供・牧野時夫さん、すけのりしんいち助乗慎一さん)

これまでに道内外の
市町村で演奏会

札幌コンサートホールKitara
の大ホールサル室で、北広島公演に
向けての練習が2022年11月12日
夜から始まりました。

北海道内や首都圏から集まったメンバーの前に、指揮をする牧野時夫さんは「今日は人数がまだ少ないけれども、本番まで3カ月もないのでしっかりと練習を重ねましょう」とあいさつしました。公演には60人余りが参加を予定します。牧野さん自らバイオリンを手に弾き方を教えるなど、練習は予定時間を超え「正確に弾くことよりも、まずは音楽を作ること集中して」などと熱い指導が続きました。



演奏者の能力を引き出しながら
音楽づくりを進める牧野さん

てたブドウや野菜が並べられ、休憩時間に団員たちが買い求めます。このオーケストラならではの光景です。

「農民オケ」の愛称で親しまれる北海道農民管弦楽団は1994年に発足しました。函館、名寄、中標津など道内23市町村に足を運んだほか、岩手県やデンマークでも公演するなど活発な演奏活動を続けています。各地の独奏者や、吹奏楽部の中高生、合唱団などと共演するのも農民オケならではです。今回の公演では、北広島市出身のコントラバス奏者、鈴木初さん^{すずき はつ}を迎えてヴァンハルのコントラバス協奏曲を演奏します。

学生時代の経験から 全道での演奏会を大切に

牧野さんは余市町で有機農園「えこふあーむ」を営んでいます。1962年に大阪府で生まれ、山梨県で幼少時代を過ごし、バイオリンとピアノは4歳から習い始めます。農業とながりのない家庭で育ちますが、北海道大学農学部へ進み「バイオリンは一人で弾いていてもつまらない。でもオーケストラに入れば楽しめそう」と北大交響楽団への入団を決め、それがオーケストラとの劇的な出会いとなりました。

そして北大交響楽団の常任指揮者

で音楽教育者の川越守さん（故人）から多くを学び、音楽漬けの毎日を送りました。「当時、北大交響楽団は全道の自治体から招かれて演奏旅行によく出かけていました。その体験から、農民オケも全道を回っているのかもしれない」と笑います。

牧野さんは大学卒業後、ワインメーカー勤務を経て余市で就農しました。

農民オケの記念すべき第1回の演奏会は1995年1月15日です。会場は札幌芸術の森・アートホールで、ベートーベンの田園交響曲などを演奏しました。その半年ほど前、農家の音楽仲間との宴席で「オーケストラをやりたいね」と盛り上がったのがきっかけです。「北海道農業試験場の金管アンサンブルを誘ったりして、なんとかメン

バーを集めました。本番当日は吹雪ということもあって観客より演奏者の方が多かった」と振り返ります。

北大農学部と



有機農園「えこふあーむ」は2022年に設立30周年を迎えました。練習場の端で牧野さん野菜コーナーが店開きする

北大交響楽団で牧野さんの先輩に当たる石正穂さん^{いし まほ}（チェロ）は、この第1回演奏会から都合がつく限りメンバーに名を連ねます。「農業でつながりを持つ人たちとの演奏は楽しいですし、活動期間が3カ月に限られているので参加しやすい」と石正さんは語ります。

農民オケを夢見た 宮沢賢治との出会い

牧野さんよりもずっと前に農民オケのアイデアを持った人がいます。『銀河鉄道の夜』などの童話で知られる宮沢賢治です。岩手県花巻市で

生まれ、農学を修めた賢治は、クラシック音楽の愛好者でした。レコードを集め、チェロやオルガンを習い、独自の世界観から農民オーケストラの創設を夢見るようになりま

す。当時、理想と現実のギャップは大きく、夢はかないませんでした。賢治の著した「農民芸術概論綱要」に牧野さんは大学時代に出会い、芸術を愛する賢治の思想と行動力に心を動かされます。そして芸術を楽しみながら農業を営みたいと考えるようになりました。

名寄市風連町で、もち米などを栽培する佐藤勝さんは、そんな牧野さんと農民オケに魅せられた一人です。道北三愛塾という農業の自主勉強会で、牧野さんが弾くバイオリンに感動し、2010年の農民オケ士別公演でさらに胸を打たれたとのこと

とです。

「18歳の時から55年間農業をやってきて、さまざまな苦労を経験しました。それなのに農業の傍らで音楽を楽しむなんて、夢のまた夢の世界でした」と佐藤さん。

農作物とともに芸術も人も育てたいという牧野さんの求道者のような姿が宮沢賢治に重なって見えたと言います。佐藤さんは、名寄に農民オケを招きたいと考え、実行委員会を

現しました。

農民オケはこうした各地での公演を通してファンを増やしてきました。

種をまいた東北でも 農民管弦楽団が

宮沢賢治の没後80年を記念し「聖地」に赴いた2013年の第19回定期演奏会は岩手県花巻市と陸前高田市で開催しました。この時、地元からも15人ほどが参加します。その中の白取克之さん（チエロ）を中心に東北農民管弦楽団が誕生し、翌2014年に青森県弘前市で結成記念演奏会を開催しました。農業に関わる人を中心に、農閑期の冬に演奏会を開くというコンセプトは北海道農民管弦楽団と一緒です。東北各県で定期演奏会を開き、2023年2月26日に花巻市でベートーベンの第9交響曲を演奏します。

東北農民管弦楽団の演奏会には北海道から牧野さんらメンバーが演奏に駆け付けます。札幌在住の久保田睦さんは東北での演奏を毎回楽しみにしています。「東北は農業がとてもしっかりしていて、お話しすると



牧野さんらが応援に駆け付けた東北農民管弦楽団の演奏会

『賢治さんはこうだった』と宮沢賢治が生活に溶け込んでいたのに感じました。私自身も農民オケに入ってから賢治さんのことを深く知りたいたく思うようになりました」と話し



牧野さんの畑を借りて野菜を育てている久保田睦さん

ます。

「農民オケ」とはいつでも全員が農家というわけではなく、農業に関わる企業や農協の職員、研究者、趣味で土いじりをする人たちも参画しています。牧野さんは「農業に興味がある、家庭菜園をやっているというだけでもいいかな、と思います」と敷居は高くしたくない考えを語ってくれました。

宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』のように、動物たちとの交流を通じて演奏が上達し、いたわりの気持ち芽生え、誰かの傷を癒やす。そうした場なのかもしれません。札幌在住でバイオリンの佐藤智之

人間にとって必要不可欠な 音楽そして芸術文化

2020年2月の、むかわ公演、安平公演は、新型コロナウイルスが急拡大する直前に行われました。その後の大流行で、コンサートや演劇といった文化芸術イベントは軒並み公演中止になりました。不要不急という言葉が行動を制限し、何が必要で何が不要なのか、「人類にとって本質的に必要なものは何か」が問われるようになりました。

2022年1月に浦河町総合文化



農民オケに初参加する佐藤智之さん

さんは今回の北広島公演で初めて農民オケに参加します。佐藤さんは賢治の母校、岩手大農学部を卒業しました。「賢治さんつながりで参加資格があるのかな、と。将来は花巻に戻って自給自足の生活をしてみたいと思っています」と夢を持ちます。

会館で開かれた農民オケの浦河公演は、ホールが満席になりました。ステージと客席の一体感に、来場者からのアンケートでは「素晴らしいオーケストラの演奏を久しぶりに聞くことができ感動しました」「温かい雰囲気でも元氣になりました」「ものすごく感動しました。ライブはいいですね」といった声が寄せられました。本当に必要なものは直接心に届くのでしょうか。

コロナ禍と併せて、世界では気候変動や人口増加、国際紛争などの要因で食糧の確保が困難になりつつあ

2022年1月に開かれた北海道農民管弦楽団浦河公演（上）と
2023年1月29日の公演ポスター（下）



ります。遺伝子組み換え、バイオガス、代替肉など、人類と農業の関わりやつながり方も変化しています。ここでも人類にとって本質的に必要なものは何かとの声があがっています。丹治カリナさん（コントラバス）は、

「この世で好きなものとして『調和と進化すなわち成長』をあげています。『音楽はハーモニーという調和そのもので、人を成長させる力となる感動を与えるものではないでしょうか』

「人の心は空の状態ではいられせん。そこから愛が消えれば、憎しみなどのネガティブな感情が生まれてきます。だから苦しい時にこそ、音楽は人の心を浄化させ、希望や光、困難を乗り越える力を与え、広めなければならぬものだと思うのです」という信念を持って農民オケに参加しています。カリナさんは、農業と音楽、そして農民オケについて「共通点が多そうに見えますが、本質的なことでつながっている者同士、農業と音楽を結び付けて、農業を手掛ける人たちに広めようとしている理念や、地方で演奏会が開かれるのが魅力的」だと強調します。



今回が5回目の参加となる
丹治カリナさん

牧野さんは「食料がないと人間は生きられない。音楽はなくても生きようと思えば生きられるけれども、人はパンのみに生きるにあらずと言うように、音楽や芸術、文化がない世界で生きる意味はどこにあるのか」と話します。

宮沢賢治が夢を見て種をまき、牧野さんたちが育ててきた農業と音楽と人のつながり。それがどのようなものなのか。今年も1月29日に北広島で実を結ぼうとしています。

お知らせ

アイワードホームページから、北海道農民管弦楽団様の練習風景やインタビューの動画を視聴できます。格納先は「トップページ」↓「ニュース&トピックス」↓「季刊アイワード」第16号を発刊しました」です。

北海道の 天然記念物⑧



二股温泉の石灰華

〔長万部町〕

（文と写真・片山健一）

取材日2022年11月20日

温泉が作り上げた巨大ドーム

明治以来続く湯治場に

JR長万部駅から車で約30分、長万部岳に向かう山道を進むと、登山口の手前に一軒の温泉宿「二股らぢうむ温泉」があり、その裏手には黄褐色に輝く巨大な丘が見えます。この丘は、湯の花が堆積してできた石灰華のドームで、世界的にも希少なものとして、1965年6月に北海道が天然記念物に指定しています。秘湯にそびえる黄褐色の丘

長万部町字大峰に所在する二股温泉、湯の花の主要成分は、炭酸カルシウム（ CaCO_3 ）です。この主要成分が温泉水の中に過飽和の状態に含まれているため、湧出すると温度と圧力が低下し、水分も若干蒸発することとで不溶性成分が沈殿し結晶化、段丘状の石灰華ドームになります。

浴場棟の隣にそびえる石灰華ドーム

北海道教育委員会が1978年9月に発行の『北海道の文化財』によると、二股川上流の支流カシュリナイ沢の左岸に、長さ約400メートル、幅約200メートルにわたって分布し、厚さは最大25メートルとされています。天然記念物の指定面積は3546平方メートルです。

石灰華の丘は遠目から見ると、むき出しの赤土のようですが、表面は固く、温泉水が流れる近くでは、棚田のような小さな畦石（リムストーン）が形成されていることが分かります。沈殿速度が非常に速いため、温泉湧出口付近では「わずか半月ぐらいいで花瓶その他の器物が自然にできあがるほど」だと『北海道の文化財』に記されており、今でも丘が少しずつ成長しています。谷に下りて沢の方から段丘の下部を見ると、岩などを石灰華が覆った流れ石（フローストーン）も形成されていました。



川岸付近の段丘下段部の流れ石（フローストーン）



流水沿いに形成された畦石（リムストーン）

ラジウムから生成されるラドンという気体は、血液や細胞を活発にして新陳代謝を促進し、血行が良くなることで、凝りや痛みが治まったり、老廃物を体外に排出したりする効果があるそうです。

2022年は、大雨による土砂崩れで一本道が通行止めとなり、「二股らぢうむ温泉」は8月中旬から3カ月間にわたり臨時休業しました。取材に訪れた日は、休業明け最初の週末で、再開を待ち望んでいた宿泊客と日帰り客でにぎわっていました。

二股温泉は、明治時代から湯治場として利用され、昭和の初期には不治の病とされた結核患者の療養場になったこともあります。1971年には、札幌市内で飼育されていたインドゾウも湯治に訪れました。多量に生じる石灰華についても、1920年代には粉末にして薬用品などとして販売された記録があります。また、終戦後は食糧の増産や質的向上に向けて、家畜の補助飼料として石灰華を子羊などに与える試験が行われ、骨疾患の予防効果が認められ成長を促進するという結果が出ています。

函館と札幌のほぼ中間にあり、JR函館本線と室蘭本線が長万部駅で分岐するため、古くから道南と道央を結ぶ交通の要衝となっています。北海道を代表する駅弁「かにめし」の町としても知られています。

長万部町

函館と札幌のほぼ中間にあり、JR函館本線と室蘭本線が長万部駅で分岐するため、古くから道南と道央を結ぶ交通の要衝となっています。北海道を代表する駅弁「かにめし」の町としても知られています。



露天風呂（写真左端）の間近にある石灰華ドーム（写真提供：二股らぢうむ温泉）

ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

アイヌモシリ オオカミが見た北海道

水越 武 著 B4変型判 204頁 6050円
北海道新聞社 発行 011・210・5744



アイヌモシリとは、アイヌ語で「人間の静かなる大地・北海道」を指す言葉です。氷河期から伝わる優雅で過酷な大自然や、ここにしか棲息しない貴重な野生生物を、北海道を深く愛し追い続けた著者の「オオカミの眼で見た」写真集です。

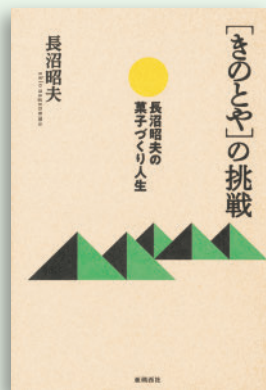
本書は10章から構成されており、大変貴重な写真が多く捉えられています。また、海外の読者にも興味深く見てもらうように、科学者としてアイヌモシリの自然に向き合ってきた北海道大学の小野有五名教授が監修し、日英併記の解説を通して北海道の地形や野生と自然を学び理解することができるような仕上がりです。

この写真集は著者、監修者、出版社、装幀者、印刷・製本会社まで全て北海道で企画・作成されたMADE IN 北海道の写真集です。アイヌモシリ・北海道の迫力ある神々しい写真の数々を楽しめる1冊です。

(クリエイション部 鍵谷貴宏)

「きのとや」の挑戦 長沼昭夫の菓子づくり人生

長沼 昭夫 著 四六判 240頁 1760円
亜細亜社 発行 011・221・5396



本書は、「チーズタルト」「札幌農学校」など有名な札幌の洋菓子店「きのとや」の創業者、長沼昭夫さんが75歳の節目で人生を振り返った自叙伝です。

学生時代から振り返り、農業、居酒屋、サラリーマン……と様々な職種を渡り歩いた長沼さんが辿り着いたのは、「お菓子の屋の経営」という道でした。長沼さんは、ケーキの受注生産や生のケーキの配達など、洋菓子店が手掛けていなかったことを早くから取り入れ、いかに「お客様に満足してもらえるか」を追求していったと語ります。

立地や設備、環境作りをしていながら、クリスマス商戦の失敗や食中毒事件を乗り越えて、北海道でも有数の製菓メーカーに成長していきます。社名の由来である「乙」とは、甲乙丙にあるように二番目という意味で、「一番を目指して謙虚に努力する」という隠れた意味を含めたと言書にあります。

妥協せずに美味しいお菓子づくりを求めている長沼さんの熱意が伝わる本書を読み終われば「きのとや」のお菓子が食べたくなること請け合いです。

(東京営業部 亀山美穂)

炭鉱町の少年

市川 洋介 著 四六判 280頁 1430円
共同文化社 発行 011・251・8078



この物語は著者が生まれ育った衰退期の炭鉱町を舞台に、斜陽産業の町の寂しさや消えゆく炭鉱の儚さを感じさせながらも、いきいきと生活する少年少女や、そこで暮らす人たちの姿を十二の物語で描いた児童文学作品集です。

本書の「あとがき」には、「一篇一篇書くたびに、遠い少年の日の喜びや悲しみが胸によみがえってくるようでした」とエピソードに対する著者の思いが記されています。

物語を読むと、独特の静けさを保った文体で綴られ、科学への憧憬と超自然的な力の下に生きる主人公の姿や、そこに暮らしていた当時の人々の肌感覚が伝わってきます。

その時代、その環境を生きた著者だからこそ描くことができる視点で、当時の炭鉱町の情景とそこに生きた人たちが鮮やかに書かれています。かつての日本を支えた炭鉱町を知ることができる貴重な資料としての側面もある1冊です。

小川未明文学受賞作家である著者が、生前に出版した最後の短編作品集となりました。

(クリエイション部 柏木英利)

新刊情報

書名の下の数値は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

おつばい2つとつてみた
がんと生きる、働く、伝える
978-4-86721-077-2

阿久津 友紀 著
四六判 224頁 1760円

強い国より優しい国
元旭川市長・元内閣官房長官 五十嵐広三 著
978-4-86721-081-9

北野 宏明 著
四六判 288頁 2200円

アイヌモシリ オオカミが見た北海道
水越 武 著
978-4-86721-079-6

B4変型判 204頁 6050円

貴族の世界 シークレット歌劇団0931
愛海 夏子 編著
978-4-86721-080-2

B5判 160頁 3300円

砂澤ビッキ作品集 終わりのない迷宮
978-4-86721-083-3

北海道立近代美術館 編
A4判 288頁 3300円

北海道のワイナリー50
つくり手たちを訪ねて
978-4-86721-082-6

阿部 さおり・阿部 眞久 著
A5判 192頁 1980円

ファイターズ2022
オフィシャルグラフィックス
978-4-86721-084-0

北海道新聞社 編
A4判 144頁 1430円

森林鉄道蒸気機関車 雨宮21号
978-4-86721-086-4

夢里塾・森林鉄道蒸気機関車雨宮21
号編集委員会 編
B5判 152頁 1980円

消えた「四島返還」完全版
安倍×ブーチン 北方領土交渉の真相
978-4-86721-085-7

北海道新聞日口取材班 編
A5判 432頁 2530円

道新プラス 道新受験情報
2023高校入試 志望校決定特集
16747-1

北海道新聞社 編
B5判 242頁 880円

北海道新聞社
0071 札幌市中央区大通西3-16
011・210・5744

日本語学習者のための漢字634
978-4-8329-3408-5

二村 年哉・阿部 仁美 著
B5判 420頁 4400円

ウエルビーイングの社会学
櫻井 義秀 編著
978-4-8329-6887-5

A5判 320頁 2860円

北のモノ・コト・ヒト こゝろばと博物館の出会い
津曲 敏郎 著
978-4-8329-3416-0

A5判 452頁 3960円

日本海軍連合艦隊の研究
木村 聡 著
978-4-8329-6886-1

A5判 344頁 8250円

北海道大学大学院文学研究部研究叢書33
ゲルマン語歴史類型論
清水 誠 著
978-4-8329-6886-8

A5判 340頁 9900円

北海道大学出版会
0009 札幌市北区北9条西8丁目
011・747・23008

増補改訂版 札幌の地名がわかる本
10区の地名を徹底解説！
978-4-906740-33-6

関 秀志 編著
四六判 508頁 2200円

亜細亜社
0007 札幌市中央区南2条西5丁目
011・221・53696

詩文の魅力
金子勝亭と中野北涼
978-4-89115-415-8

A5判 120頁 1760円

介護員詩誌 分け入りフリーリング
北岡 けんいち 著
978-4-89115-417-2

四六判 279頁 11000円

中西出版
0003 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
011・785・0737

北海道の農業 令和4年版
A4判 60頁 1650円

北海道の施肥最適化マニュアル
小野寺 政行 監修
978-4-86450-088-0

B5変型判 196頁 3981円

北海道農協年鑑 令和5年版
B5判 596頁 132000円

北海道協同組合通信社
0005 札幌市中央区北5条西14丁目
011・231・5261

小さな労働組合 勝つためのコツ
鈴木 一 著
978-4-90261-69-0

四六判 224頁 1980円

文政四年の激震（相馬大作事件）
下斗米 哲明 著
978-4-90261-69-0

四六判 208頁 2530円

寿郎社
0007 札幌市北区北7条西2丁目
011・708・8565

富之助とみよ
あるフラジル日系人牧師の心の日本
石井 浩 著
978-4-943128-0

四六判 248頁 1650円

柏嶋舎
0002 札幌市中央区北2条西3丁目
011・219・1211

山旅句 随想集
高澤 光雄 著
978-4-8328-2206-1

四六判 221頁 1760円

近世北海道山林史―山林が語る北海道の近世
平工 剛郎 著
978-4-8328-2207-8

A5判 333頁 3960円

北海道出版企画センター
0018 札幌市北区北18条西6丁目2-47
011・737・1755

はじめて育てる北国の果樹
小坂 善仁・猫塚 雅彦 著
A5判 208頁 1980円

北海道農業改良普及協会
0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
011・251・0746

炭鉱町の少年
市川 洋介 著
978-4-8739-372-4

四六判 280頁 1430円

北の聲シリーズ9
坂口清一
978-4-8739-373-1

画家 サラ・アールインデックス 編
A5判 36頁 1100円

M・M・ドブロトヴォールスキーの
アイヌ語・ロシア語辞典
978-4-8739-374-8

M・M・ドブロトヴォールスキー 著
寺田 吉孝・安田 節彦 訳
A5判 1160頁 16500円

まだ見ぬ科学のための
科学技術コミュニケーション
978-4-8739-373-9

奥本 素子・種村 剛 著
A5判 144頁 1980円

共同文化社
0003 札幌市中央区北3条東5丁目
011・251・8078

自費出版
「百寿」をめざして
真嶋 昭三 著
A5判 320頁

紙のミズダコ
遠別のミズダコ
978-4-8328-2206-1

表紙のミズダコ
櫻井 守 著
978-4-8328-2207-8

ミズダコは寒海性の世界最大のタコで、足（腕）を広げると3メートルを超える個体も見られる。北海道ではその習性を利用して、樽流し漁やタコ箱漁で水揚げされる。知能は高いといわれているが、それを上回る人間の知恵に負け、あの手この手で漁獲されるミズダコの思いはいかがであらうか。

遠別町は留萌管内北部の町で、稲作の北限地である。漁業は一時の苦しい時代を乗り越えて、オホーツク海沿岸で放流するホタテ稚貝の主要生産基地となっている。

GEM木版画会 札幌市在住



※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL <https://iword.co.jp>